

2 居住年数との相関性

取り上げる問いは年代別と同じである。

(1) 相関表から

相関表Ⅱ (居住年数)

【表62】

	問1(2) 地域の人との付き合い	問1(3) 地域の人との面識・交流	問1(4) 友人・知人との付き合い・交流	問2(1) 地域の人への信頼	問2(2) 一般的な人への信頼	問3(1)a 地 縁的な活動	問3(1)b グループや サークル活 動	問3(1)c ボランティ ア・NPO・ 市民活動	
問5(5) 居住年数	Pearson の 相関係数	.283**	.337**	-.036	.159**	.139**	.223**	.187**	.085*
	有意確率 (両側)	.000	.000	.301	.000	.000	.000	.000	.015
	度数	843	844	846	839	838	831	833	825

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

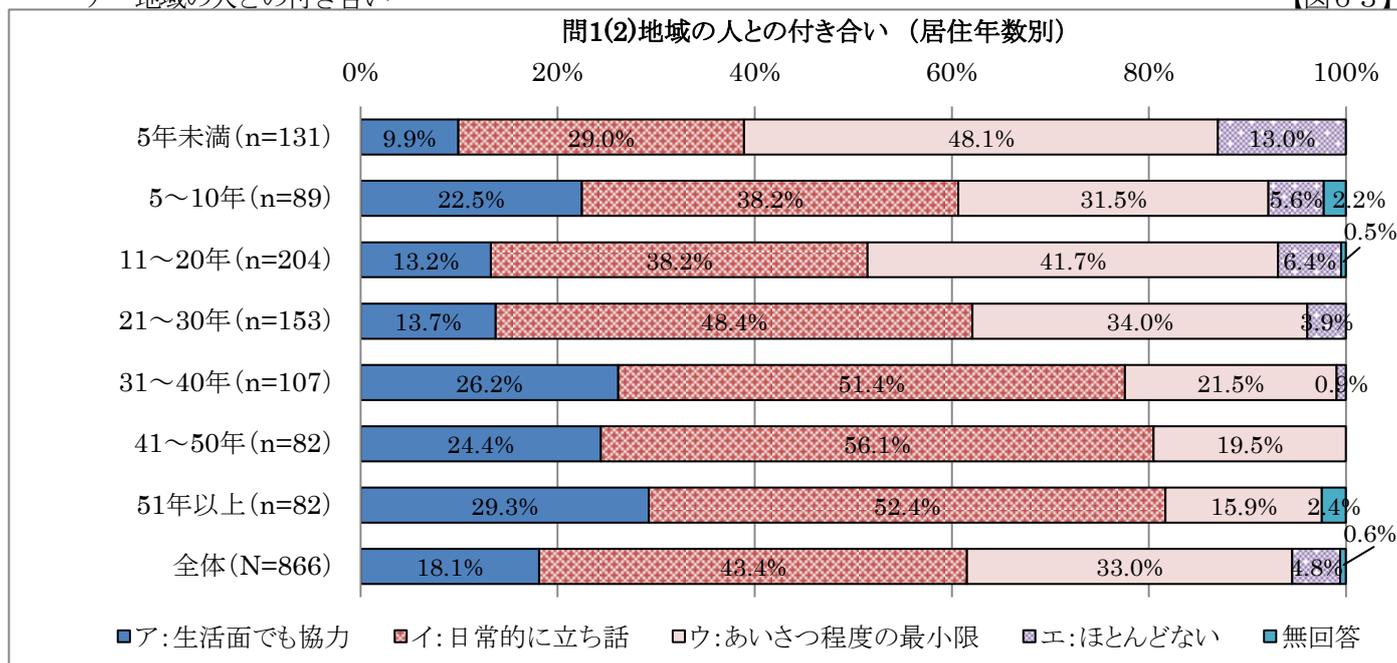
Pearson の相関係数から、問1(3)との相関が最も認められ、問1(2)、問3(1)aにも相関がうかがえる。したがって、ネットワークや社会参加については、年齢が高い人、居住年数が長い人に醸成されているという傾向があることが想定できる。

(2) クロス集計から

① ネットワーク

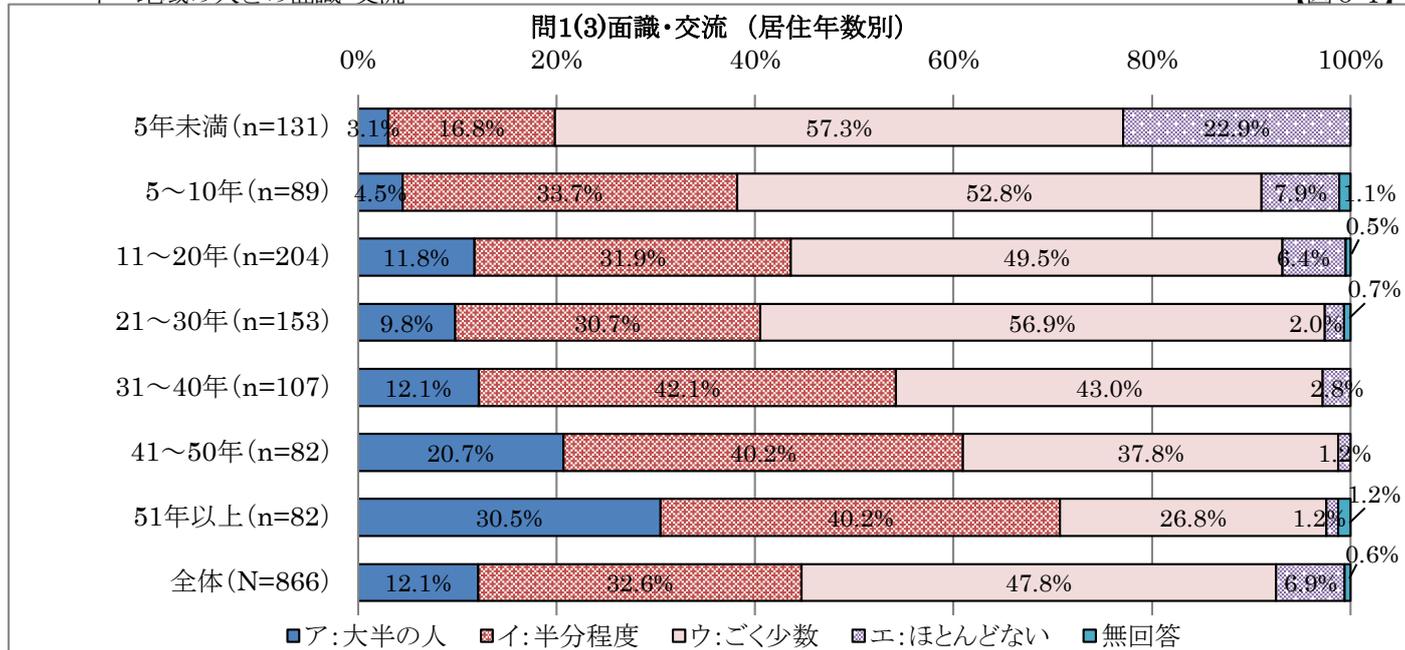
ア 地域の人との付き合い

【図63】

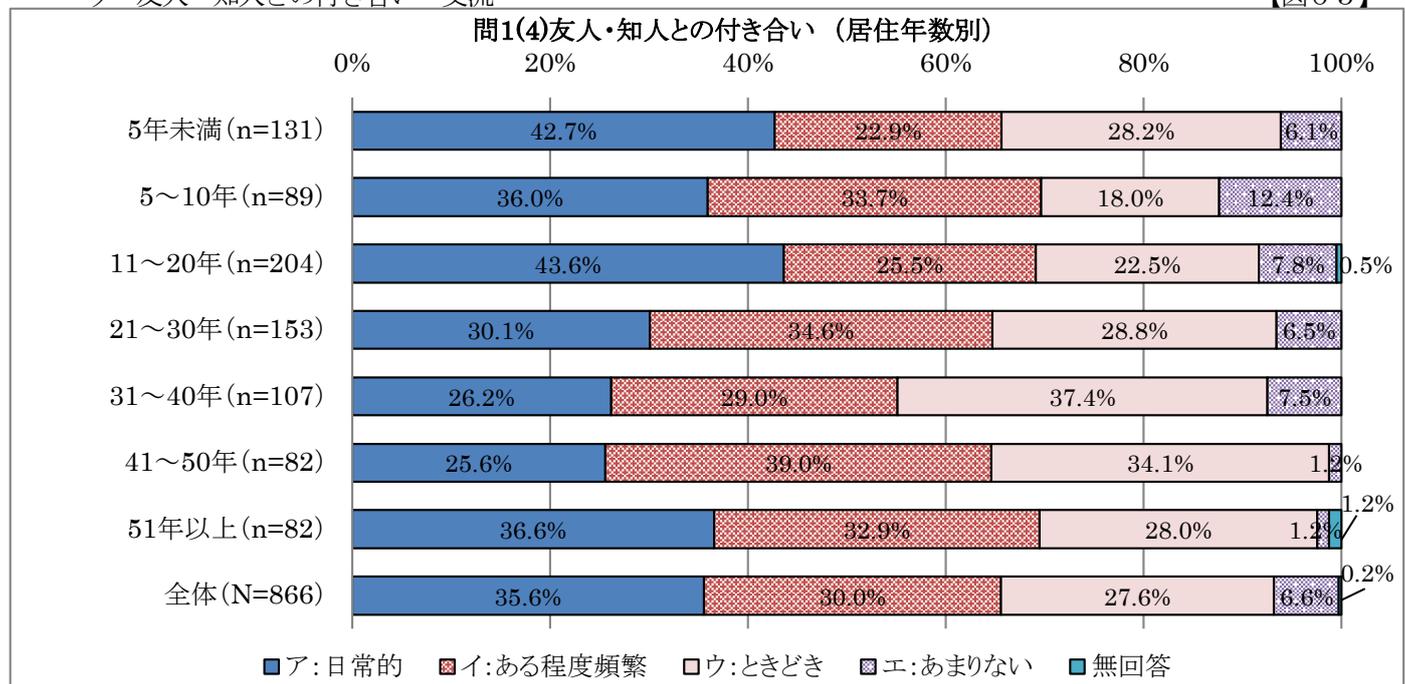


「生活面でも協力」「日常的に立ち話」の合計で見ると、11～20年以降、居住年数が長いほど割合が高くなる。「ほとんどない」は居住年数が長くなるほど割合が低くなり41～50年以降はいなかった。

5～10年では、「生活面でも協力」が22.5%、「生活面でも協力」「日常的に立ち話」の合計は60.7%で、5年未満、11年～20年よりも高い割合である。



「大半の人」「半分程度」の割合で見ると、11～20年は43.7%で21～30年の40.5%よりも3.2ポイント高くなるが、全体的には年代が高くなるにつれて割合も高くなる傾向が見られる。

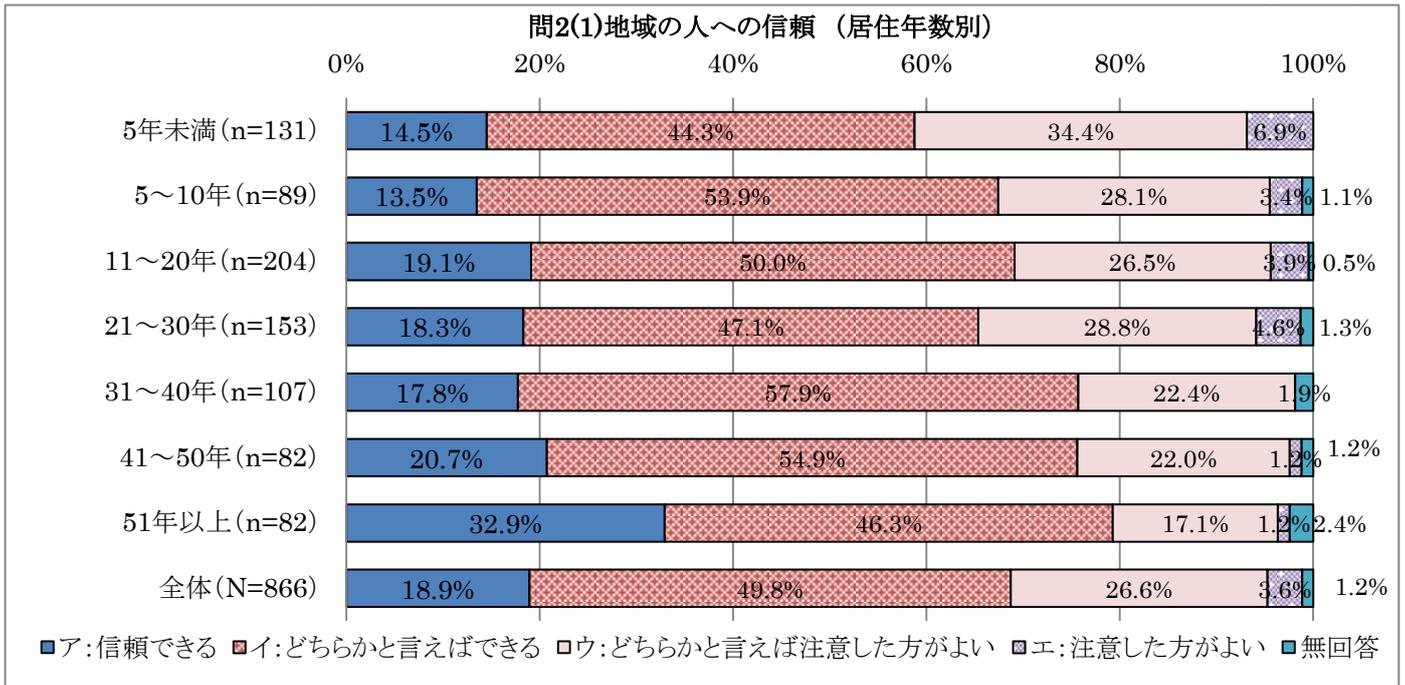


「日常的」は11～20年が最も高く、43.6%、続いて5年未満が42.7%である。「日常的」「ある程度頻繁」の合計で見ると31～40年が55.2%で最も低い。「あまりない」は5～10年が12.4%で最も高い。

② 信頼

ア 地域の人への信頼

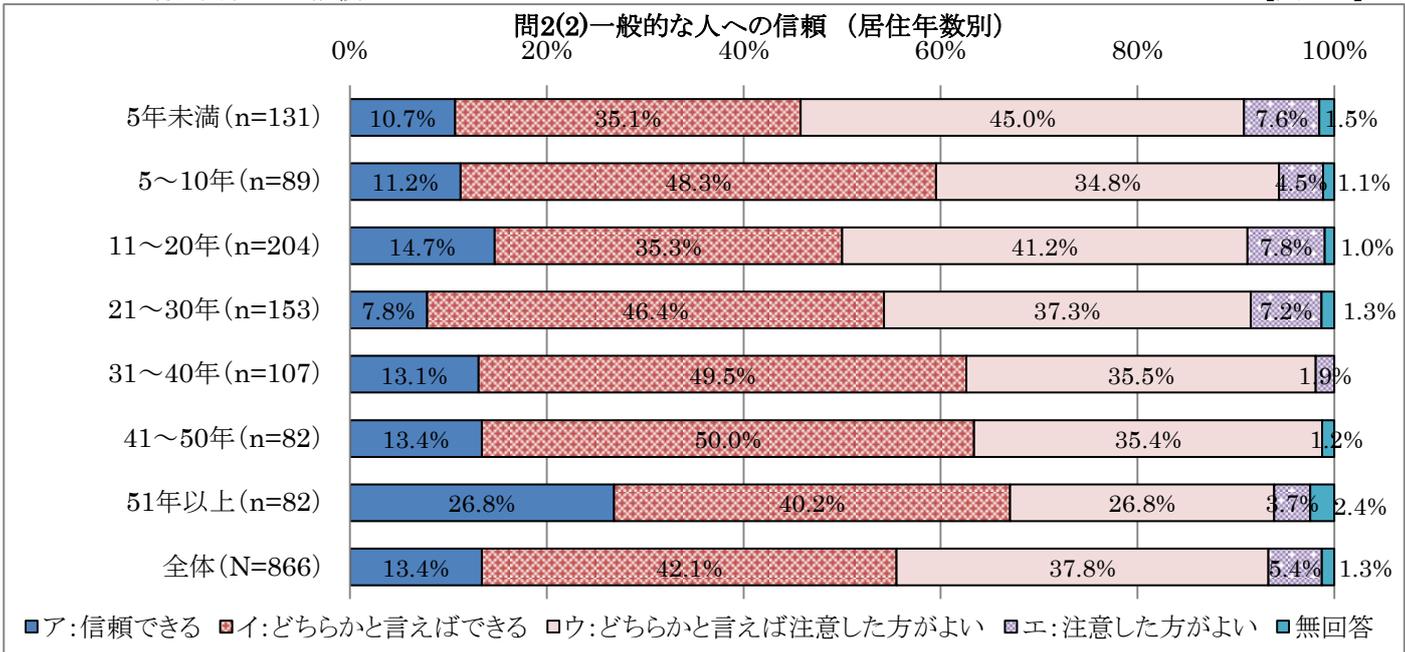
【図 6 6】



「信頼できる」「どちらかと言えばできる」の合計でみると、最も高いのは51年以上で79.2%である。21～30年、41～50年等、完全には当てはまらないが、全体的には年代が高くなるにつれて割合は高くなる傾向が見られる。

イ 一般的な人への信頼

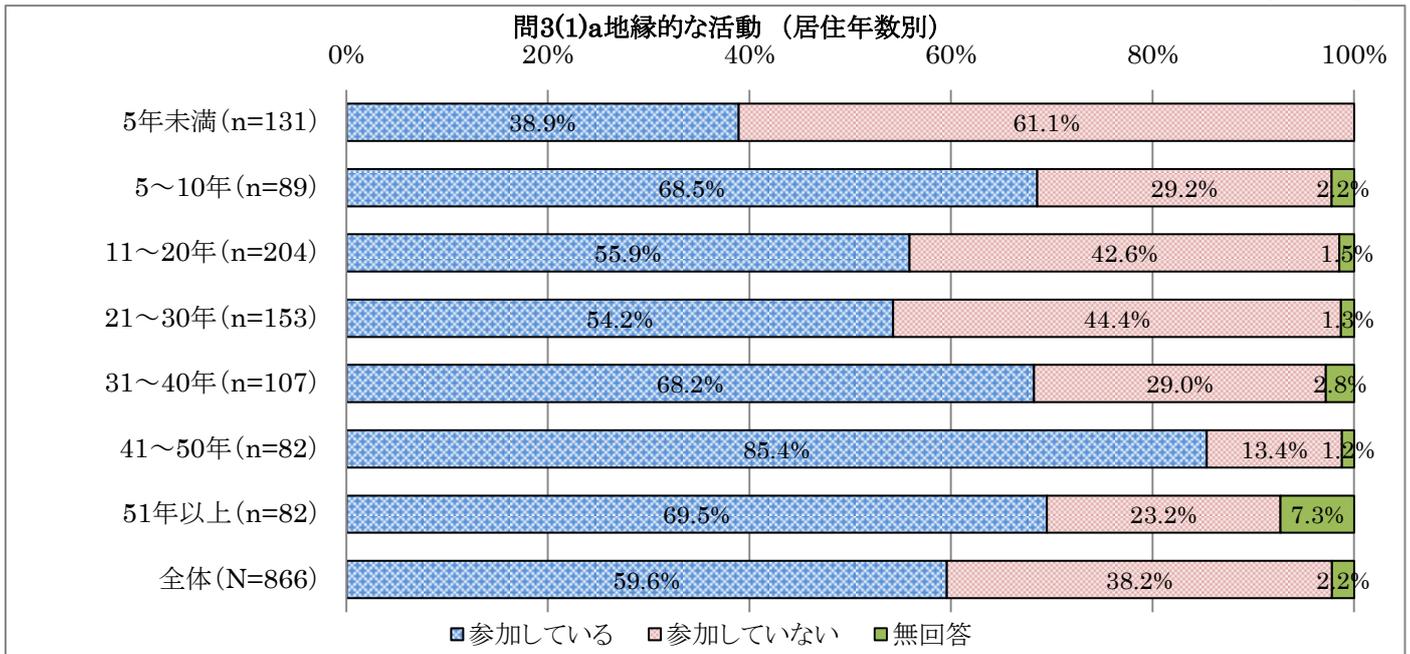
【図 6 7】



「信頼できる」「どちらかと言えばできる」と回答した人の割合の合計では、51年以上が最も高く67.0%である。5～10年は当てはまらないが、全体的には居住年数が長いほど、割合は高くなる傾向が見られる。

③ 社会参加
ア 地縁的な活動

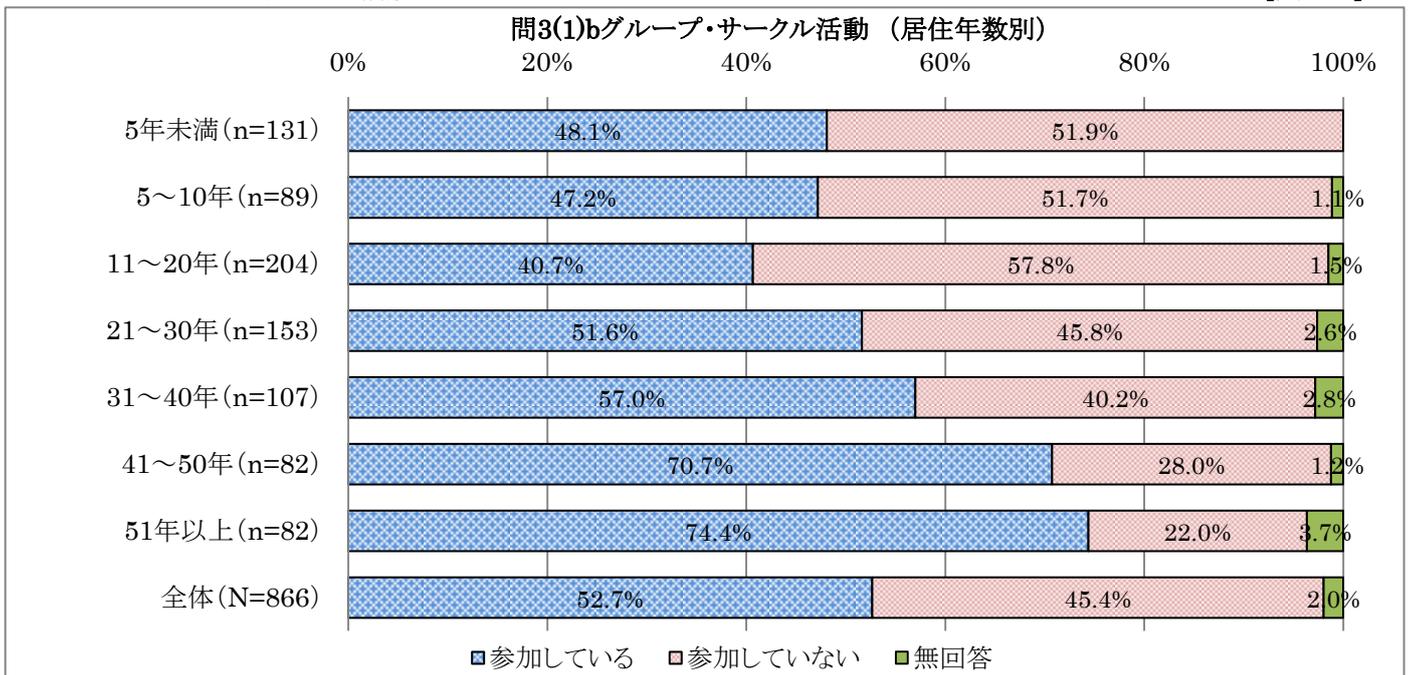
【図68】



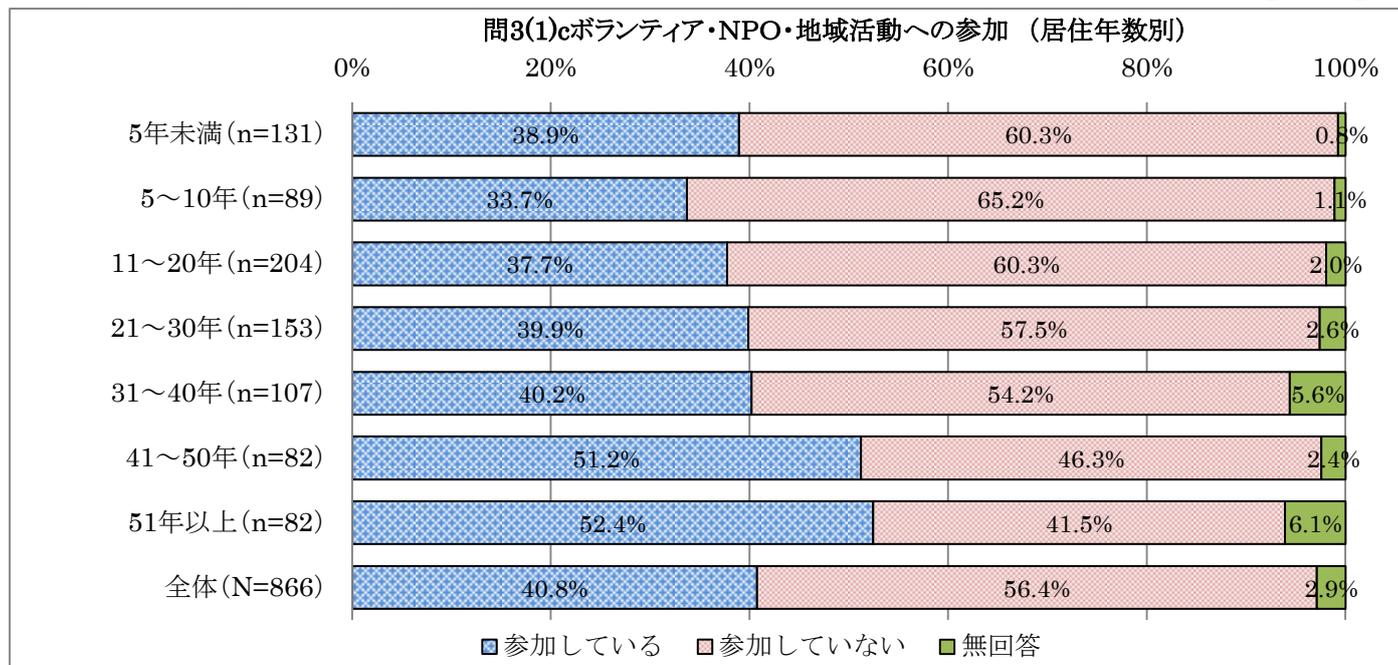
参加しているという回答の割合は、41～50年が85.4%と最も高い。続いて5～10年が68.5%である。最も低いのは5年未満で38.9%である。21～30年から31～40年は14.0ポイント高くなり、31～40年から41～50年は17.2ポイント高くなる。しかし、41～50年から51年以上では、15.9ポイント低くなる。

イ グループ・サークル活動

【図69】



参加しているという回答の割合は、11～20年が最も低く40.7%である。11～20年以降は居住年数が長くなるにつれて参加の割合も高くなり、51年以上では、74.4%で最も高い。



参加しているという回答の割合が最も高かったのは51年以上で52.4%である。5年未満は当てはまらないが、全体的に居住年数が長くなるにつれて参加している割合も高くなる傾向が見られる。